

冒険心が飛翔する“100人の戯空間”  
**ウイング** フィールド  
 〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F  
 TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312  
 ウイングフィールド公式サイト URL <http://wing-f.main.jp/>

## ウイングカップ9特別企画 スタッフワークショップ

### 「舞台監督ワークショップ」

8/8(水) 7:00  
 9(木) 7:00  
 講師／谷本誠  
 参加費／1,000円

### 「音響ワークショップ」

10(金) 7:00  
 講師／あなみふみ  
 参加費／1,000円

### 「照明ワークショップ」

11(土) 7:00  
 講師／溝渕功  
 参加費／1,000円

応募締切／1次締め切り 7月3日(火)  
 2次締め切り 8月5日(日) 見学／1次締め切り分追加募集  
 詳細はウイングフィールドのホームページをご覧ください。

## ディレクターズワークショップ

13(月)  
 16(木)  
 10:00 開始  
 ファシリテータ／広田淳一 (アマヤドリ)  
 協力／花まる学習会王子小劇場  
 参加費／無料

応募締切／1次締め切り 7月3日(火)  
 2次締め切り 7月20日(金) 見学／1次締め切り分追加募集  
 詳細はウイングフィールドのホームページをご覧ください。

## どれだけ環境が変わっても、

棚瀬 美幸

月に1本の芝居を観れたら御の字、これが今の観劇状況。20代は週に3本観ていた気がする。30代は週に1本。出産後は芝居を観ることは贅沢なことになった。それでも、数少ない子連れ観劇可や、安価な託児サービスのある芝居を探しては出掛ける。子連れでの観劇はハードルが高く、娘が泣き出し途中で観劇を断念したことも数々。託児付きはワンステージのみだったりするので、都合をつけるのが難しい。娘を預けて自分のための芝居を観に行くことに罪悪感もあった。しかし、ようやくその罪悪感が薄れてきた。子どもには子どもの人生。泣くのは親を好きな証拠。預けるのにお金がかかってもそれは必要経費。預てくれる人には甘える、そして頭を下げる。

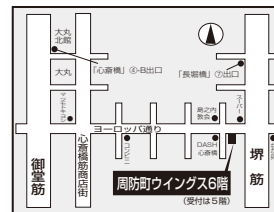
自分のための芝居を観られないならば、と子どものための芝居を探す。児童劇や人形劇、サーカスに、はたまたプリキュアショー。昔の自分が「ケッ」と馬鹿にしていた類の作品もある。だが中には「おっ」と思わせられる作品も。プリキュアの被り物だけは、異様な大きさと固まった笑顔が受け入れられないのだが。

観劇だけではなく、創作状況も一変した。これまでの稽古は仕事終わりの平日の夜と、土日の昼から夜が中心だったが、今は仕事を早退しての平日の昼間と、土日の朝から夕方まで。基本、夜は育児のため稽古なし。それに付き合ってもらえる出演者さん集めも公演準備の一環だ。稽古にどっぷり、稽古後のお酒にもどっぷりだったあ

の頃が懐かしい。息抜きという単語を知らず、暇さえあれば芝居の予定を入れていた。あの頃は私の大切な一部だ。夜9時に娘とともにお布団に潜りながら、がむしゃらで無茶苦茶だったあの頃を思い出す。今のこの早寝早起きの生活も、また環境に応じて変わっていくのだろう。

どれだけ環境が変わっても、たとえペースは落ちたとしても、芝居を創ると覚悟を決めている。フラフラと彷徨いながら、身軽で、その軽さを持って余し、それでも真っ直ぐに立ち続けようとしていたあの頃。そのあの頃は戻らない。酒飲みの小娘と公言していたのに、今ではたまに酒飲みになる、かつて小娘だった母になった。食べるのが遅い娘に腹を立て、テレビをつけばなしにして、ベランダで煙草を吸う時、あの頃の軽さがまだこの身体に消えずに残っていることに気づかせられる。そして泣きたくなる。私の身体はこの場において気軽に歩けないのだが、それにも関わらず、煙のように地面から私を連れ去ろうとするあの軽さ。軽さを身体に宿したまま、煙のみを暗闇に飛ばし、明るい部屋で不安気こちらを窺っている娘の世界に戻る努力をする。踏みとどまることは何時だって力を要する。どんな生活をしていても、幾つになっても、飼いや慣らすことはできない。うかうかしていると、その軽さは他者や自分への抑制の効かない怒りや、投げやりな自暴自棄に変化する。それが怖くて、私は芝居を必要としているのだろう。いい芝居や創っている時間は、自分の立ち位置を教えてくれるものだから。

(劇作家・演出家・南船北馬代表)



次代を担う表現活動を、微力ながら支援します。

す おう まち  
**周防町ウイングス**